

Reha tech

ハンドル形電動車いす S637 スマートパルN
取扱説明書

311803-8903



まえがき

このたびはフランスベッドの製品をお買いあげいただきまして、ありがとうございます。
この取扱説明書には、製品を安全にお使いいただくための、注意事項と使用方法を記載しています。

- 安全のため、必ずこの取扱説明書をよく読み、内容を十分理解してから使用してください。
- 取扱説明書を読んだ後は、いつでも必要なときに取り出せるように、所定の場所に保管してください。

製品を安全にご使用いただくために。

- 本製品は、道路交通法では「歩行者」として扱われ、運転免許は必要ありません。
「歩行者」としての交通ルールとマナーを守り、安全な走行を心がけてください。
- 操作に慣れるまでは、広い平坦な場所で十分練習してください。
- 運転する前に必ずバッテリー残量を確認し、出発から帰着まで余裕があることを確認してください。
- 使用者最大体重（積載物を含む）は 100kg です。 体重制限を守って使用してください。

⚠ 使用前には必ず点検を行ってください。

- いつも安心して使用するためには日常の点検・整備が必要です。忘れずに行ってください。
- 製品に異常がある場合は使用を中止して、販売店または弊社お客様相談室へご連絡ください。

フランスベッド

1.	はじめに	2
2.	安全のために必ずお守りください	3
3.	各部の名称	7
4.	組み立てと取り付け	9
5.	各部の機能と操作について	13
6.	運転のしかた	17
	6-1. 走行の前に	17
	6-2. 前進・後退と走行レバー	17
	6-3. 乗車のしかた	18
	6-4. 停止・駐車	18
7.	充電方法	19
8.	日常点検	22
9.	定期点検	25
10.	困ったときは	27
	10-1. 電源ランプの連続点滅について	27
	10-2. こんなときには	28
11.	製品の仕様	29
12.	保証書	30

1. はじめに

(1) 最初に組立を行ってください。

製品出荷時はシート・前かご・杖ホルダーなどが、分かれて入っています。
最初に、取扱説明書の組立手順に従って組立を行ってください。

(2) 最初の走行前に必ず充電を行ってください。

商品がお手元に届いた時点で、バッテリーは充電されていません。
初めて運転する前には、必ずバッテリーをフル充電して下さい。

(3) 取扱説明書を必ずお読みください。

取扱説明書には、電動車いすを操作する際の警告・禁止事項が記載されています。
警告・禁止事項を守らずに操作すると、重大な事故につながる危険性があります。
必ず取扱説明書をお読み頂いたうえで操作や点検を行い、安全にご利用ください。

2. 安全のために必ずお守りください

絵表示について

この取扱説明書および製品の表示では、製品を安全に正しく使用していただき、お使いいただく方や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。

表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

誤った取り扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して説明しています。

 警告	誤った取り扱いをしたときに、死亡や重症などの重大な結果に結びつく可能性があるものです。
 注意	誤った取り扱いをしたときに、傷害または家財などの損害に結びつく可能性があるものです。
	この記号は、禁止の行為を告げるものです。(～しないでください)
	この記号は、行為を強制したり指示する内容を告げるものです。(～してください)
	この記号は、絵表示に対する行為を禁止する内容を告げるものです。

 警告	
次のような場所や状況では、接触や衝突、転倒の恐れがあります。 運転を避けるか、介助者に同行してもらい、安全確認や脱輪予防をしてください。 ・混雑している場所 ・交通量の多い道路 ・幅の広い道路の横断歩道 ・踏切 ・電車などの乗り物に乗るとき ・狭い道 など	
脱輪などで動けなくなった場合には、自走で脱出しようとせず、周囲にいる人の助けを借りてください。無理に脱出しようとすると、事故や故障の原因になります。	
踏切内で立ち往生してしまうおそれがあるため、踏切の横断はできるだけ避けてください。 やむを得ず踏切を渡る場合は、介助者に同行してもらい、線路の溝にはまらないよう、線路に対して直角に走行してください。 立ち往生してしまったら、周りの人に助けを求めてください。	
事故や災害などで冠水路を走行したり、電動車いすを水没させたりしたときは、火災または故障のおそれがありますので、直ちに使用を中止して、販売店または弊社お客様相談室に点検を依頼してください。	
充電をするときは、医療用電気機器の作動に影響を及ぼす恐れがあります。 心臓ペースメーカーなど、医療用電気機器を装着されている場合は、充電による影響の有無を、医師や医療用電気機器製造業者に確認の上、充電を行って下さい。	

犬などのペットを引くなどして走行しないでください。 バランスを崩して転倒・転落などの思わぬ事故の原因になります。	
エスカレーターの使用や階段の上り下りはやめてください。 転倒して事故やケガにつながるおそれがあります。	
坂道ではクラッチを手押しの位置で使用しないでください。 電動車いすが静止できず衝突・転倒のおそれがあります。	
電動車いすの分解・改造・修理は絶対に行わないでください。 製品の強度や耐久性が損なわれ、転倒など事故やケガにつながるおそれがあります。	
故障や異常があるときは、使用しないでください。事故の原因になります。	
直射日光の当たる場所、高温になる場所（火気のある場所）、湿気の多い場所、雨のあたる場所に保管、放置しないでください。故障の原因になります。	

⚠ 警告

子供が遊びに使えるような場所に保管、放置しないでください。 ケガや故障の原因になります。



⚠ 注意

電動車いすは、道路交通法では「歩行者」として扱われます。
歩行者としての交通ルールを守って安全に走行してください。

歩道や横断歩道を通り、歩道のないところは右側通行してください。
横断歩道では、一時停止して安全を確認してください。

歩道が途切れた所や、通行できないためやむを得ず車道に出るときは、車や段差に十分注意してください。

混雑している場所は避けるようにしてください。

歩行者用標識や信号を守ってください。

使用者最大体重（積載物を含む）は 100kg です。
この重量を超えて使用すると、故障や破損の原因となります。

運転するときは、車輪に巻き込まれたり、運転の支障となったりするような服装は避けてください。



斜め横断はしないでください。
渡り切るのにより時間が掛かるため、他の交通の妨げになるおそれがあります。

本製品が身体に合わない場合は、使用しないでください。
健康をそこなうおそれがありますので、医師や看護師などの専門医に相談してください。
事故や体調不良をおこすおそれがあります。

立ち上がった状態で運転しないでください。 転倒してケガをするおそれがあります。

周囲の温度が-10℃以下の低温、40℃以上の高温の環境下では走行や保管をしないでください。
バッテリーが凍結したり過熱したりして、早期劣化の原因になります。

周囲の温度が0℃以下の低温、40℃以上の高温の環境下では充電しないでください。
破損や変形、早期劣化の原因になります。

バッテリーは火気の近くに置かないでください。 火災や熱による故障の原因となります。

シンナー、ベンジンなどの溶剤は、使用しないでください。 製品を傷めるおそれがあります。



警告



電動車いすは1人乗りです。
2人乗り（子供・ペット類も
含む）はしないでください。
事故の原因になります。



お酒を飲んだとき、
眠気をもよおす薬を服用
したとき、過労気味、病気、
気分が優れないときなどは
運転しないでください。
事故の原因になります。



荷物のけん引には
使用しないでください。
事故の原因になります。



走行中は、携帯電話やヘッド
ホンステレオなどを使用
しないでください。
事故の原因になります。



車道での走行は
避けてください。
事故の原因になります。



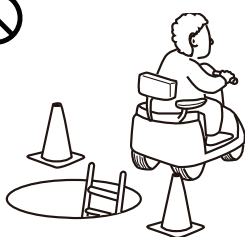
防止柵のない側溝付近の
走行は避けてください。
転倒や事故の原因に
なります。



雨降り時や雪道の走行は
避けてください。
事故の原因になります。



夜間の走行は避けて
ください。
事故の原因になります。



後退するときは、後方の人や
障害物、くぼみなどに十分注
意してください。
事故の原因になります。



蛇行、急旋回、急停止は
しないでください。
事故の原因になります。

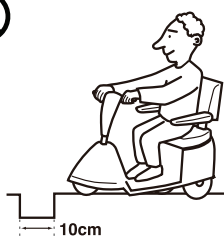


運転時は電動車いすから
身体をはみ出さないでくだ
さい。バランスを崩し、転倒
するおそれがあります。
ステップに両足が乗ってい
ない状態では走行しないで
ください。転倒や事故の
原因になります。



大きな段差の通過は避けて
ください。転倒や事故の
原因になります。
通過できる段差の目安は
5cmです。段差を越える
ときは両手でハンドルをしっ
かり握り、段差に対して直角
に前進走行してください。

警告



10cm以上の溝は越えないでください。
事故の原因になります。
溝を越えるときは垂直で進入し、低速で走行してください。



坂道では、上り下りとも前進で真っ直ぐゆっくり走行し、スピードは出さないでください。
転倒事故の原因になります。



坂道を後ろ向きで降りないでください。
転倒のおそれがあります。
必ず前向きで降りてください。



凸凹道、砂利道、草地など走行しないでください。
転倒や電動車いすの損傷の原因になります。



急な傾斜面の横断は避けてください。
横転のおそれがあります。
走行できる角度は 4° が目安です。傾斜面を横断するときは、身体を斜面の高い方に傾けてバランスを取ってください。急な傾斜面を走行すると、光と音で警告をお知らせします。
(左右約 4° 以上)



急な坂道の走行は避けてください。
転倒などの事故の原因になります。
走行できる角度は登坂、降坂ともに 10° が目安です。
急な坂道を走行すると光と音で警告をお知らせします。
(前後約 10° 以上)



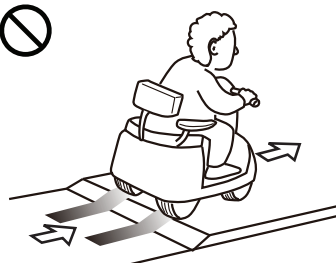
坂道では前かごに重い荷物を載せないでください。
転倒の原因になります。



坂道では電動車いすから乗り降りせず、必ず平らな場所に止めてから降りてください。
事故の原因になります。



坂道を走行するときは、勾配に対して垂直に走行してください。
転倒のおそれがあります。



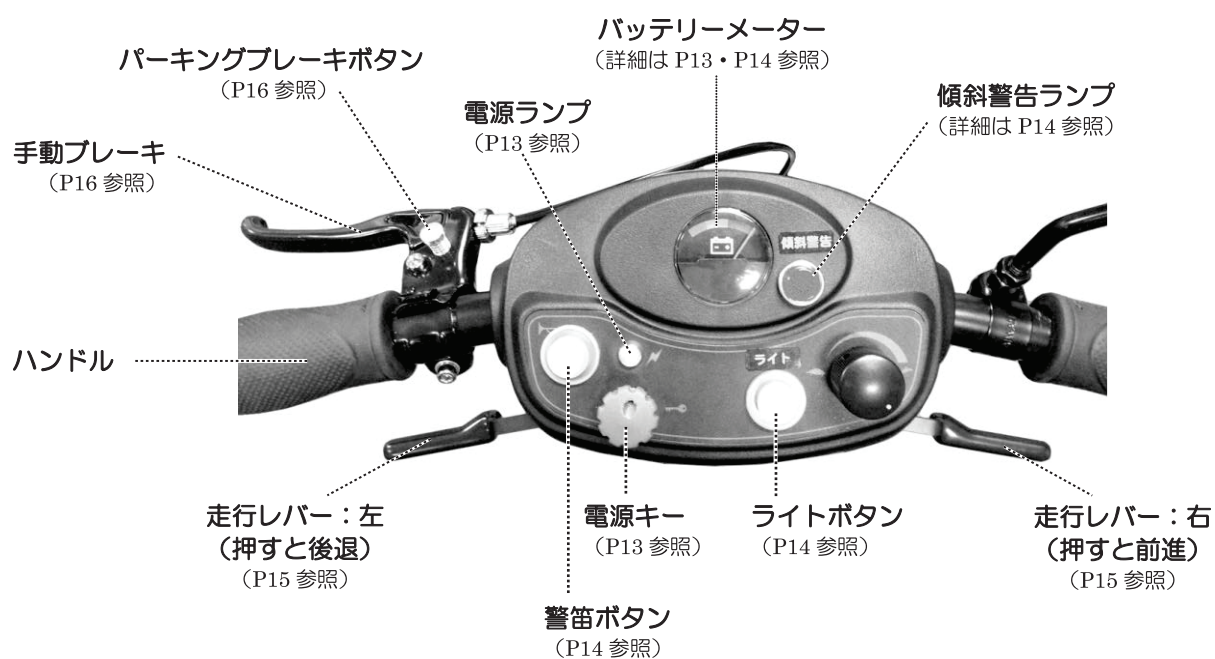
段差を超える際は、垂直で進入し、低速で走行するようにしてください。

3. 各部の名称

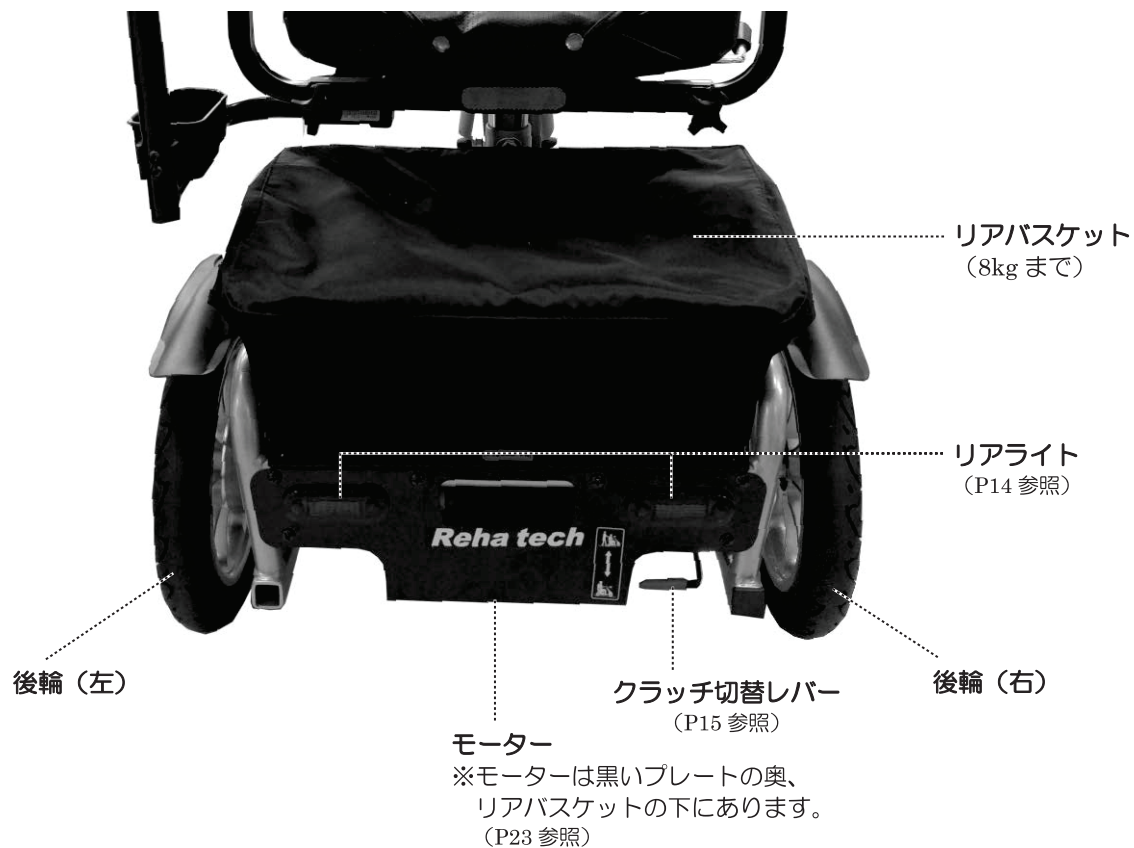
【電動車いす 外観】



【ハンドル・操作パネル部】



【電動車いす 後部】



【充電器セット】

充電器接続ケーブル



4. 組み立てと取り付け

4-1. シートの取り付け

シート右下にあるシート固定レバーを引きながらシートポストに挿し込んでください。
シート固定レバーを離して、シートを固定してください。



乗り降りの際にシート固定レバーを引いてシートを回転させると乗り降りが楽にできます。
シートは 45° 間隔の角度で固定することができます。



シートを動かした後は、シート全体を軽く前後左右に動かして、シートが確実に固定されていることを確認してください。

⚠ 警告

走行するときは、「シート」を前向き以外の位置で使用しないでください。
運転操作が充分に行えず、衝突・転倒するおそれがあります。



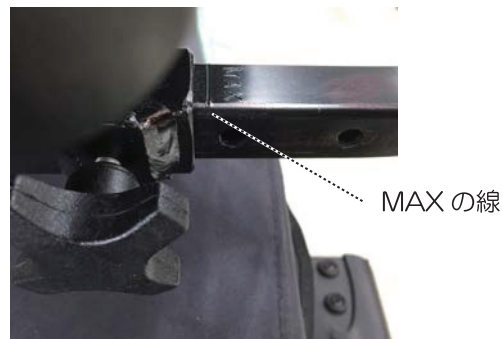
4-2. アームレストとシートベルトの取り付け

- (1) アームレストとシートベルトは左右の形状が異なります。片方ずつ組み立ててください。
- (2) アームレストを取り付ける前に、シートベルト先端の輪をアームレストのフレームに通します。
- (3) シートベルトを付けたアームレストをシート後方のパイプに挿入してください。



4-3. アームレストの取付幅調整

アームレストの取付幅は（3段階）に調整することができます。
アームレストの取付幅を調整するときは、固定ノブを緩めてアームレスト幅を調整します。
調整幅が決まったら穴位置を合わせて、固定ノブを締めます。
フレームに刻まれた「MAX」の位置が最大幅の目印です。



4-4. アームレストの跳ね上げ



「アームレスト」を跳ね上げることで楽に乗り降りができるようになります。

跳ね上げる時は、「アームレスト」の先端を持ち上げて下さい。
下げる時は、「アームレスト」の先端を押して下げて下さい。

⚠ 注意

「アームレスト」に腰を掛けたり荷物を載せたりするなどの大きな力を加えないで下さい。
「アームレスト」が破損するおそれがあります。



4-5. シートベルトの使い方

シートベルトを締めるときは、シートベルト先端の金具をロックするまでバックルに押し込みます。
シートベルトが緩いときは、腹部を強く圧迫しない程度にベルトの長さを調整してお使いください。
シートベルトを外すときは、バックルの赤い「PRESS」ボタンを押してロックを解除します。



⚠ 警告

姿勢が崩れやすい場合には、シートベルトを着用して転落しないよう安全にお使いください。



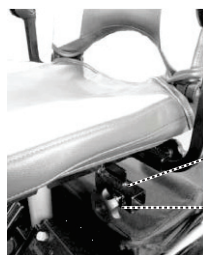
組み立てと取り付け

4-6. 杖ホルダーの取付

- (1) 杖ホルダーを、シート下の杖ホルダー取付パイプに挿入します。
- (2) 突き当たるまで挿入してから、穴位置を合わせ、固定ノブで確実に締め付けます。



杖ホルダー



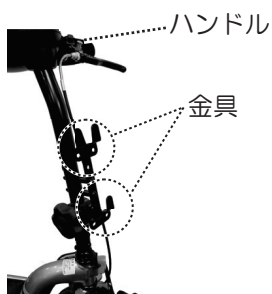
杖ホルダー取付パイプ

固定ノブ



4-7. 前かごの取付

ハンドル前側の2箇所の金具に「前かご」を掛けて取り付けます。



ハンドル

金具



前かご

かご取付金具



- ※1 「前かご」には、重さ 5kg までの荷物を載せることができます。
- ※2 「リアバスケット」には、重さ 8kg までの荷物を載せることができます。

⚠ 注意

「かご」に荷物を入れるときは、上端から荷物がはみ出さないように入れてください。
はみ出した荷物が、走行やハンドル操作に支障をきたすことがあります。



4-8. ハンドル角度の調整

ご自身の運転姿勢に合わせて、ハンドルの角度を調整して下さい。



ハンドル

ハンドル角度調整ノブ

ハンドル角度の調整方法

- (1) ハンドルを片手で支えながら、もう片方の手でハンドル角度調整ノブを緩めます。
- (2) ハンドルの角度を動かし、操作がしやすい位置に合わせます。
- (3) ハンドルの角度が決まったら、ハンドル角度調整ノブを締めて固定します。

角度調整の時に、ハンドル角度調整ノブに、電気コードなどを挟み込まないように注意して下さい。

⚠ 警告

ハンドル位置の調整時の最後に、「ハンドル角度調整ノブ」を確実に締め付けて固定して下さい。
ハンドルが緩み、転倒などの事故につながるおそれがあります。



⚠ 注意

ハンドル角度の調整時には、コード類を挟み込まないようにして下さい。
 電動車いすの作動不具合につながる場合があります。

**4-9. バックミラー**

走行時の後方確認用「バックミラー」です。後方が見えるように角度を調節してください。

⚠ 注意

バックミラーの調節は走行前に行ってください。 走行中の調節は、前方不注意の原因になります。

**4-10. バッテリーを充電する**

バッテリーの充電方法については、P19～P21 のバッテリーの充電方法を参照してください。

⚠ 注意

商品がお手元に届いた時点で、バッテリーは十分な充電がされていません。
 商品到着後は、ご使用前に必ずバッテリーを充電してください。



5. 各部の機能と操作について

5-1. 操作パネル



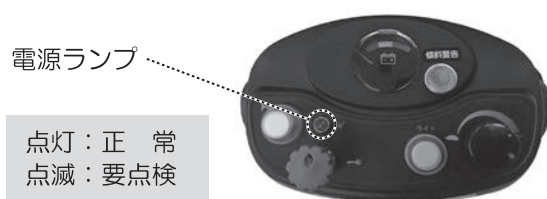
5-2 電源スイッチ

電源キーは、差し込み式で、上下に押し込んだり引き上げたりすることで「入り切り」を制御します。

- 電源スイッチの電源キーを押し込むと 「入」 になります。
- 電源スイッチの電源キーを手前に引くと「切」 になります。

電源スイッチを切らずに入りっぱなしの状態を約 10 分続けると、「ピーッ」という警笛音が鳴り、電源が切れた状態になります。

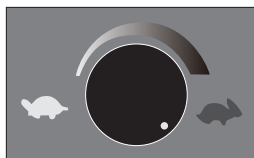
5-3. 電源ランプ



- (1) 電源スイッチを「入」にすると「電源ランプ」が点灯します。
- (2) 点検が必要な場合には「電源ランプ」が点滅してお知らせします。
電源ランプは、連続する点滅回数で点検箇所を表示します。
(警告点滅は約 2 秒の消灯を挟んで点滅を繰り返します)
点滅パターンの違いとその意味・対処方法については
(P27 参照：困ったときは) をご参照ください。

5-4. 速度設定ツマミ

走行速度の上限を設定します。



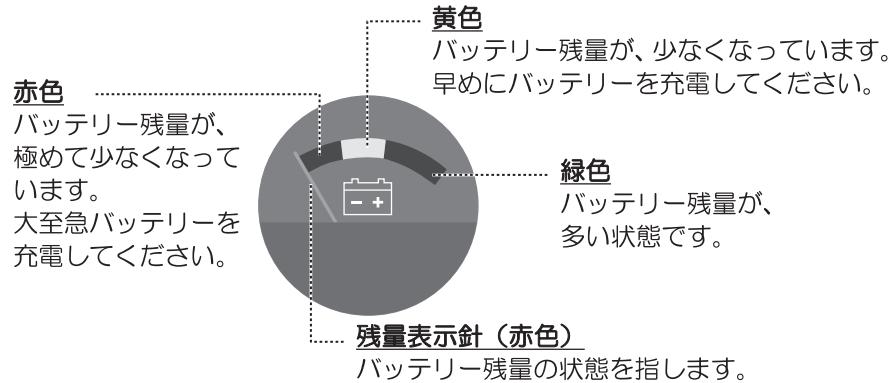
- (1) ツマミを回して、速度を調整します。
カ メ 方向に回すと、速度が遅くなります。
ウ サ ギ 方向に回すと、速度が早くなります。
- (2) 前進の最高速度は時速 2km/h から 6km/h まで、無段階に設定することができます。
- (3) 後退の最高速度は時速 1km/h から 2km/h まで、無段階に設定することができます。

5-5. バッテリーメーター

(1)

残量を表示します。
バッテリーの消費に連動して、残量表示の針が右の緑色から左の赤色に動きます。
黄色に針が移動したらバッテリーを早めに充電してください。

バッテリーメーターの表示色とバッテリー残量



- (2) バッテリー残量が少なくなると、電源ランプの点滅*でお知らせします。
電源ランプが1回ずつ点滅することを確認したら、速やかに充電を行ってください。
バッテリー残量が極端に少なくなると電源ランプは2回ずつの連続点滅と音で警告します。走行中に停止してしまう場合がありますので、直ちに安全な場所へ移動し、速やかに充電を行ってください。
- ※ 点滅1回の場合は、（点滅） 2秒休止 （点滅） 2秒休止・・・
点滅2回の場合は、（点滅）（点滅） 2秒休止 （点滅）（点滅） 2秒休止・・・
のように、点滅の間に2秒間の休止をはさんで点滅を繰り返し、問題が有ることをお知らせします。
- (3) バッテリーメーターの針が、走行中の表示より停止後に増加する場合がありますが、異常ではありません。
（[例] 走行中：黄色 走行後：緑色）

5-6. 傾斜警告ランプ



- (1) 安全傾斜角度を超える急な坂を走行すると、光と音で警告します。
（前後約10°以上、左右約4°以上）
- (2) しばらくすると警告音は消えますが、ランプの点滅は続きます。

警告

急な坂道の走行は避けてください。転倒などの事故の原因になります。
走行できる角度は登坂、降坂ともに10°が目安です。

急な傾斜面の横断は避けてください。横転のおそれがあります。走行できる角度は4°が目安です。
傾斜面を横断するときは、身体を斜面の高い方に傾けてバランスを取ってください。



5-7. ライトボタン



ライトボタンを押すとヘッドライトとリアライトが点灯します。
もう一度押すと消灯します。

5-8. 警笛ボタン



警笛ボタンを押すと警笛が鳴り、車いすが近づいていることを周りの人に知らせます。
見通しの悪い曲がり角を走行するときにも役立ちます。
必要なとき以外は鳴らさないでください。

5-9 走行レバー



右側の走行レバーを押すと、前 に進みます。
 左側の走行レバーを押すと、後ろに進みます。
 レバーの押し込む量で速さをコントロールします。
 特に後ろに進むときは後方の安全に十分注意して操作してください。

5-10. 自動制御の電磁ブレーキ

電動走行中に走行レバーを離すと自動制御の電磁ブレーキが働き、安全に停止します。
 電磁ブレーキは、電源スイッチを切った状態でも機能しています。

その為、手押しで電動車いすを動かしたい場合は、電源を切った状態で、クラッチを手押しの位置にしてください。(次項参照：クラッチ)

5-11. クラッチ

- クラッチは、モーターでの走行（電動走行）と、手で動かす（手押し）を切り替えるためにあります。
 電動走行するときは、クラッチ切替レバーを「電動走行」の位置で使用します。
 手押しで動かしたいときは、クラッチ切替レバーを「手押し」の位置で使用します。
 赤いクラッチ切替レバーを上にはげると電磁ブレーキが解除され、本体を手押しで動かせるようになります。 但し、クラッチ切替レバーが手押しの位置では、電動走行はできません。



手 押 し：手で動かすためのモードです。
 モーターによる走行はできません。

電動走行：モーターで走行するためのモードです。
 手で動かすことはできません。

- クラッチ切替レバーが手押しの位置にある時に電源スイッチを入れると、電源ランプが 5 回連続点滅して、電動走行ができない状態であることをお知らせします。
 電動走行する場合は、クラッチ切替レバーを「電動走行」の位置に戻してから、電源を入れてください。



坂道や傾斜のある場所では、クラッチ切替レバーを手押しの位置で使用しないでください。
 電磁ブレーキが効かず、電動車いすが制止できなくなるおそれがあります。



5-12. 手動ブレーキ

手動ブレーキ

駐車をするときや手押しで動かしているときに使用します。

パーキングブレーキボタン

電源を切った状態で、車両を駐車するときに使用します。



- (1) 手動ブレーキは、手押しで動かしているときに使用します。
- (2) パーキングブレーキボタンは、電動車いすの電源を切った状態で、駐車する時に使用します。

① 手動ブレーキレバーをしっかりと握り

② パーキングブレーキボタンを押すと
ブレーキが掛かった状態を保ちます。

パーキングブレーキを解除するときは
手動ブレーキをしっかりと握れば自動的に解除されます。

**⚠ 警告**

電動走行中は、手動ブレーキを使用しないでください。



電動走行前には、必ずパーキングボタンを解除してください。
前輪がロックし、走行が不安定になるおそれがあります。



5-13. 減速センサー

減速センサーは、ハンドルを深く切った際に自動的に減速する安全装置です。
急カーブや、急なハンドル操作をした場合にも、ハンドルの切れ角に応じて自動的に速度を落とします。



減速センサー

電源スイッチを「入」にして、ハンドルが正面を向いているとき減速センサーは赤く点灯します。

ハンドルを左右に切ると赤い点灯が消え、速度が減速します。

⚠ 警告

電動車いすの運転に慣れるまでは、公園などの広い場所で、介助者の立合いのもとに十分な練習を行ってください。 不慣れな状態での運転は事故の原因になります。

電動車いすへの乗り降りは、平らな場所でパーキングブレーキを掛け、電源スイッチを「切」にした状態で行ってください。 電動車いすが動いてバランスを崩し、転倒や転落事故の原因になります。



6. 運転のしかた

6-1. 走行の前に

- (1) 電源が「切」になっていることを確認してください。 (P13 参照)
- (2) クラッチ切替レバーが、電動走行の位置にあることを確認してください。 (P15 参照)
- (3) パーキングブレーキが掛っている状態で乗車します。
パーキングブレーキは、走行前に解除してください。 (P16 参照)
- (4) バックミラーを動かして、後方の状況がよく見えるように調節してください。
調整の際は、「シート」に深く腰掛けてから行ってください。 (P12 参照)
- (5) 電源キーを挿し込み、電源を「入」にします。 (P13 参照)
- (6) バッテリーメーターでバッテリー残量を確認してください。
バッテリーメーターの針が黄色の位置になっている場合は、バッテリーを充電してください。 (P14 参照)
- (7) 速度調整ツマミで、最高速度を設定してください。 (P13 参照)

6-2. 前進・後退と走行レバー

- (1) 前進するときは、右側の「走行レバー」を押します。
走行レバーの押し加減で速度が調節できます。
走行レバーを離すと、電磁ブレーキが掛かり停止します。
- (2) 後退するときは、左側の「走行レバー」を押します。
後退時は警笛が鳴り周囲に警告音でお知らせします。
走行レバーの押し加減で速度が調節できます。
走行レバーを離すと、電磁ブレーキが掛かり停止します。
- (3) 走行レバーを押したまま、電源スイッチを「入」にすると、電源投入エラーとなり、電源ランプが6回連続点滅してお知らせします。(この状態では走行できません)
走行レバーを定位置に戻してから、電源スイッチを入れなおしてください。



走行レバー：左
(押すと後退)

走行レバー：右
(押すと前進)

⚠ 注意

「走行レバー」を押したまま、電源スイッチを「入」にしないでください。
(電源ランプが6回点滅し、電動車いすは作動しません。) (P27 参照)



6-3. 乗車のしかた

- (1) ステップに両足を乗せ、ハンドルを両手で握ってください。



ステップ



ステップから足がはみ出さないようにしてください。

警告

ステップに両足が乗っていない状態で、電動車いすを走行させないでください。 転倒・事故の原因になります。	
走行中に「電源スイッチ」を「切」にしないでください。 急停止して転倒のおそれがあります。	
電動車いすの「電源ランプ」が点滅するときは、電動車いすに何らかの異常が発生しています。 27 ページの内容に従って適切な対応をしてください。 放置すると事故や故障の原因になります。	

注意

下り坂では「速度設定つまみ」を低速にして前進で慎重に降りてください。 スピードを出し過ぎると、転倒や横転の原因になります。	
屋内などの狭い場所では「速度設定つまみ」を低速にして走行してください。 スピードを出し過ぎると、事故の原因になります。	
後退する場合、後方の人や障害物に注意してください。 「バックミラー」だけに頼らず、直接目で見て確認してください。 バックミラーに頼りすぎると、事故の原因になります。	
走行中や停止中に無線機などの強い電磁波の影響を受けると、警笛が鳴ったり、「電源ランプ」が点滅して停止することがあります。 この場合は「電源スイッチ」を「切」にして再度「入」にすると、走行が可能になります。 それでも走行できない場合は販売店までお問い合わせください。	
走行中は「速度設定つまみ」を操作しないでください。 走行中の操作は、前方不注意の原因になります。	
近くに人がいる場合や交通量が多い場合は十分注意してください。 事故の原因になります。	

6-4. 停止・駐車

- (1) 停止するときは「走行レバー」から手を離してください。自動制御（電磁）ブレーキが掛かり停止します。
- (2) 駐車するときは周囲の安全を確認して、通行の妨げにならない場所に駐車してください。
- (3) 駐車するときは必ずパーキングブレーキボタンを使ってパーキングブレーキを掛けてください。
- (4) 駐車するときは必ず電源スイッチを「切」にして、電源キーを抜いてください。

注意

走行中は手動ブレーキレバーを使用しないでください。	
制動距離は、走行条件によって変わります。余裕をもって停止してください。	
事故や盗難を防ぐために、「電源キー」の保管は厳重にしてください。	

7 充電方法

7-1. バッテリーの充電

⚠ 注意

商品がお手元に届いた時点で、バッテリーは十分な充電がされていません。
商品到着後は、ご使用の前に必ずバッテリーを充電してください。



バッテリーはバッテリーユニットに内蔵され、シートの下に左右 2 個、取り付けられています。
そのバッテリーユニットの間に、電源ソケットが配置されていますので、充電方法は下記に従って行ってください。

- (1) 電動車いすの電源スイッチを「切」にしてください。
- (2) 電源ソケットの保護カバーをずらして、充電プラグを電源ソケットに差し込んでください。

電源ソケット 保護カバー

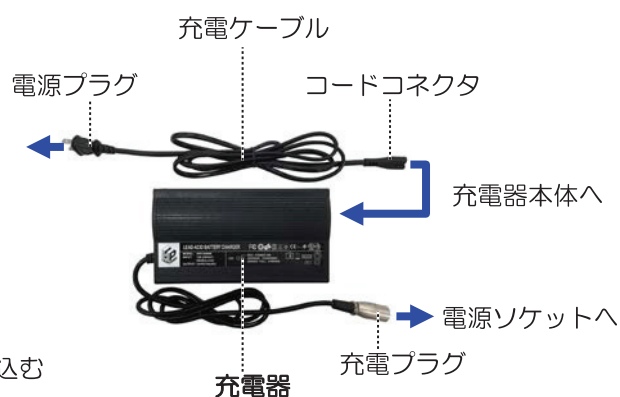


保護カバーを回す



充電プラグを
電源ソケットに差し込む

充電器セット



- (3) 充電ケーブルのコードコネクタを充電器に繋がします。
- (4) 充電ケーブルの電源プラグを家庭用 100V コンセントに差し込むと充電が始まります。
充電器側面の LED ランプで、充電状態を確認することができます。
 - ・点灯なし：充電ケーブルの電源プラグがコンセントに挿し込まれていません。
 - ・赤色点灯：充電プラグが、電源ソケットに正しく接続されていません。
 - ・橙色点灯：充電中
 - ・緑色点灯：充電完了
 - ・赤色点滅：充電異常 (P28 参照：「こんなときには」)
- (5) 充電時間
充電時間は約 7 時間です。※充電時間は気温の影響により夏場に比べ冬場の方が長くなります。
- (6) 充電が完了したら、電源プラグと充電プラグを抜いてください。



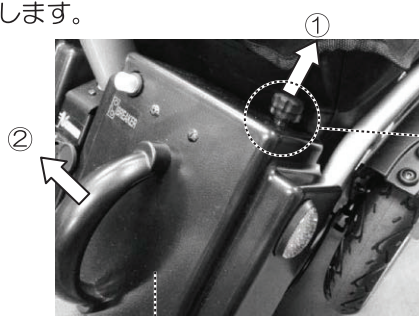
LED ランプ

7-2. バッテリーユニットの取り外し

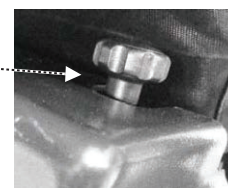
バッテリーユニットは取り外して充電することができます。
特に冬場の寒い時期は、充電に時間が掛かることがありますので、取り外して、屋内などの暖かいところで充電することをおすすめします。

バッテリーユニットを取り外す手順は、

- (1) バッテリーユニット上部のロックノブを引き上げ、ロックを解除します。
- (2) ロックノブを引き上げながら、バッテリーユニットを②の矢印方向に引いて外します。
- (3) もう 1 個のバッテリーユニットを外します。



ロックノブ



バッテリーユニット

7-3. 充電台による充電

電動車いすに付属の充電台により充電を行います。

- (1) バッテリーユニットと充電台の三角シールを合わせて、バッテリーユニットを充電台に差し込みます。
- (2) バッテリーユニットを上から確実に差し込んでください。
- (3) 充電プラグを電源ソケットに差し込みます。
充電台の電源ソケットは充電台の正面、保護カバーの下にあります。
保護カバーを回し、電源ソケットに充電プラグを差し込みます。



- (4) 充電ケーブルの電源プラグをコンセントに差し込むと充電が始まります。
- (5) 充電が終わったら、充電プラグを抜き、保護カバーを掛け直します。
充電状態の判断は、P19 バッテリーの充電のLEDの色を参照してください。

7-4. バッテリーユニットを本体へ取り付ける

充電台で充電したバッテリーユニットを、電動車いすの元の位置に取り付けます。

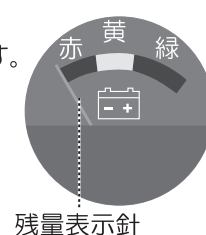
- (1) バッテリーユニットを三角シールの位置を合わせ、まっすぐ最後まで差し込みます。
- (2) バッテリーユニットのロックノブが完全に下がり固定されていることを確認してください。
- (3) バッテリーユニットを引っ張り、しっかりと固定されていることを確認してください。
- (4) 反対側も同様にバッテリーユニットを取り付けます。



7-5. 充電のタイミング

バッテリーを長持ちさせるためには、ご使用になられた後には、必ず充電を行ってください。
充電せずに放置し、バッテリーが完全に放電してしまうと、バッテリーは劣化してしまいます。

バッテリーメーターの針が赤色のゾーンにある場合は、緊急に充電を行ってください。



7-5. ブレーカー

ブレーカーはバッテリー保護のために付いている安全装置です。それぞれのバッテリーユニットの上部に一つずつ付いています。通常操作では使用しません。



⚠ 警告

充電中は、「バッテリーユニット」の取り外しをしないでください。 感電のおそれがあります。	⊘
屋外や充電器が濡れそうな場所では、充電しないでください。 漏電や感電するおそれがあります。	
損傷、変形のある充電ケーブル、充電プラグ、電源プラグは使用しないでください。 感電・ショート（短絡）・発火の原因になります。	
濡れた電源プラグや濡れた手で充電しないでください。 感電のおそれがあります。	
充電中、「バッテリーユニット」に火気を近づけないでください。 引火爆発のおそれがあります。	
直射日光を避け、風通しのよい場所で充電してください。 引火爆発のおそれがあります。	
雨よけシートなどを掛けたまま充電しないでください。 引火爆発のおそれがあります。	
電源ソケットの保護カバーは、充電終了後は必ず閉めておいてください。 漏電や感電するおそれがあります。	!
雨・露を受けない、湿気の少ない場所で充電してください。 感電のおそれがあります。	
電源プラグの抜き差しは確実に行ってください。 発熱、破損及び感電のおそれがあります。	
延長コードを使用するときや屋外で電源プラグを接続する場合は、水や雨などがかからないように注意してください。 感電のおそれがあります。	

⚠ 注意

専用の充電器以外では、充電しないでください。 充電できなかつたり、「バッテリーユニット」を傷めたりするおそれがあります。	⊘
「充電器」の分解・改造をしないでください。 充電できなかつたり、「バッテリーユニット」を傷めたりするおそれがあります。	
幼児やペットが出入りする場所では充電しないでください。 事故の原因になります。	
充電するときは必ず満充電（充電完了）となるまで充電してください。 充電途中でコンセントを抜くとバッテリーの早期劣化の原因となります。	!
電源プラグを抜くときは、電源プラグ本体を持って抜いてください。充電ケーブルを持って引っ張らないでください。 充電ケーブルが断線するおそれがあります。	
バッテリーユニットを取り外すときは、取っ手をしっかり握り、落とさないよう注意してください。	

8. 日常点検

⚠ 注意

日常点検は、使用状態から判断し、適切な時期に行ってください。
日常点検は、走行確認ができる安全で広くて平らな場所で行ってください。
日常の使用や点検で異常が見られる場合は、ご使用を中止し速やかに販売店までお問い合わせください。



8-1. ハンドルの操作確認

「ハンドル」を左右いっぱいに操作し、スムーズに動くか、ゆるみやガタツキが無いかを確認してください。

8-2. 前輪、後輪の確認

- (1) 「前輪」、「後輪」に損傷が無いかを確認してください。
- (2) タイヤの溝の深さが0.5mm以上あるかを確認してください。
- (3) タイヤに金属片、石またはその他の異物が刺さっていないかを確認してください。
- (4) タイヤが磨り減って溝がなくなっていたり、走行に支障がある場合は交換が必要です。販売店までお問い合わせください。



8-3. タイヤ回転部の異物確認

「前輪」、「後輪」のタイヤ回転部分に草や紐などの異物が巻き付いていないかを確認してください。

- 巻き付いている場合は、取り除いてください。
- 除去しきれない場合は、販売店までお問い合わせください。



8-4. 電源スイッチの確認

電源スイッチを「入」にして電源ランプが点灯することを確認してください。

8-5. バッテリーメーターの確認

電源スイッチを「入」にして「バッテリーメーター」の充電状態を確認してください。
メーターの針が黄色部分に移動していたら早めに充電してください。(P14 参照)

8-6. 充電ランプの確認



LED ランプ：橙色点灯

バッテリー充電中に「充電器」のLED ランプが
橙色に点灯することを確認してください。
(P19 参照)

8-7. 走行レバーの操作確認 (P15 参照)

- (1) 右側の走行レバーを押して、前進することを確認してください。
- (2) 左側の走行レバーを押して、後退するとともに警笛が鳴ることを確認してください。
- (3) (1)(2)操作時に、走行レバーから手を離すと、電磁ブレーキにより自動的に止まることを確認するとともに、その状態で本体を後方から押して、電磁ブレーキが正常に作動していることを確認してください。

8-8. 速度設定ツマミの操作確認

設定速度に応じて速度が変化することを確認してください。(P13 参照)

8-9. ライトボタンの確認

「ライトボタン」を押してヘッドライトとリアライトが点灯することを確認してください。(P14 参照)

8-10. 警笛の確認

「警笛ボタン」を押して警笛が鳴ることを確認してください。(P14参照)

8-11. 減速センサーの確認 (P16 参照)

- (1) 電源スイッチを「入」でハンドルが正面を向いているとき、減速センサーが赤く点灯していることを確認してください。
- (2) ハンドルを左右に切ると、赤い点灯が消えることを確認して下さい。

8-12. クラッチと手押し操作の確認

クラッチを手押しの位置にしたとき、手で本体が動かせることを確認してください。
手押し操作中に車輪のがたつきや、異音がないことも確認してください。(P15 参照)

8-13. 手動ブレーキの操作確認

手押しで電動車いすを動かしながら、手動ブレーキを操作して、電動車いすが確実に停止することを確認してください。(P16 参照)

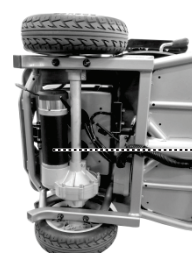
8-14. 電動車いす下部の確認

- (1) 電動車いすを保管している地面にオイル等が付着していないかを確認してください。
 - (2) 電動車いす下部が異常に錆びていたり、損傷したりしていないかを確認してください。
 - (3) オイル漏れや異常な錆、ボルトの欠損などの損傷がないかを確認してください。
- 下左写真の点線部がモーターです。点検時にモーターに触れるなどする場合は、電源を切った状態で行ってください。



モーター

オイル付着（漏れ）確認
錆、損傷の確認
ボルト欠損の確認



参考：車体 裏側

8-15. バックミラーの確認

「バックミラー」に汚れや破損がないか、後方が正しく確認できるかを確認してください。

8-16. 走行中の異常確認

走行して異常な音がしないかを確認してください。

「走行レバー」を操作したとき、急発進するなどの異常がないかを確認してください。

8-17. 日常のお手入れ

日常の汚れは、乾いた柔らかい布で拭いてください。著しい汚れを落とす場合は中性洗剤で汚れを拭き取り、乾いた柔らかい布で拭いてください。

⚠ 注意		
汚れを拭き取るのに、シンナー、ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤を含んだものおよび、研磨剤、漂白剤などは使用しないでください。市販のクリーナーを使用するときは、一度目立たない所で試してから使用してください。変色、変質、商品を傷める原因になります		

8-18. 通常の保管

電源スイッチを「切」にして、平らな場所で保管してください。

8-19. 長期の保管

バッテリーユニットの保護のため、電動車いす本体からバッテリーユニットを外し、なるべく室内で保管してください。月に 1 回以上はバッテリーユニットを充電してください。

⚠ 注意	
屋外で保管しないでください。電動車いすが雨に濡れると錆や各部の劣化の原因になります。	
高温の場所（夏場の車のトランクなど）に保管しないでください。樹脂部品の変形などの原因になります。	

9. 定期点検

⚠ 注意

安全にご使用いただくために、1年ごとに定期点検を受けてください。
 電動車いすを使用しない場合でも定期点検を受けてください。
 定期点検のご依頼は販売店にお問い合わせください。



点検整備項目			
点検箇所		点検項目	点検方法
車体	ハンドル	ハンドルの操作具合、緩み及びガタつき	ハンドルを左右ストッパに当たるまで回し、スムーズに旋回すること。緩み及びガタつきがないこと。
		ステアリングの取付及び損傷	取り付け部に緩みがなく、ステアリングシャフトに損傷がないこと。
		ステアリングの軸受け部のガタつき	ハンドルバーシャフトの軸受け部に回転方向のガタつきがないこと。
		減速センサーの作動	ハンドルを左右に切ったとき、速度が半分に減速すること。
	走行レバー	走行レバーの作動及び戻り具合	電動走行中に走行レバーを離したとき、スムーズに停止位置に戻り、電動車いすが確実に停止すること。
	操作パネル	電源スイッチの作動	電源スイッチの入切ができること。
		速度設定ツマミの作動	速度設定ツマミの操作に応じて速度が変化すること。
		警笛ボタンの作動	警笛ボタンを押して警笛が鳴ること。
		ライトボタンの作動	ライトボタンを押してヘッドライトとリアライトが点灯すること。
	手動ブレーキ	ブレーキの効き具合	手押しで動かしながら「手動ブレーキレバー」を引き、確実に停止すること。
		手動ブレーキレバーの遊び	手押しで動かしながら「手動ブレーキレバー」を引いたとき、確実に停止すること。
		パーキングブレーキ	パーキングブレーキが掛かること。解除できること。
	ホイール	回転及び異音・ガタツキの確認	ホイールの回転がスムーズで、異音、ガタツキ、及び振れなどがないこと。 また、ホイール内側に草・紐などの巻き付きがないこと。
		ボルト及びナットの緩み	ナットに緩みが無く、規定のトルクで締まっていること。 トルク基準値：前輪 24～27Nm、後輪 43～47Nm
		変形及び損傷	走行に支障をきたす変形及び損傷がないこと。
	シート	シートの取付状態	シートの取付状態及び取付ボルトに緩みがないこと。
	タイヤ	タイヤの溝深さ及び異常磨耗	タイヤの溝深さが 0.5mm 以上あり、異常な磨耗がないこと。
	ボルト・ナット	ボルト・ナットの緩み	各部のボルト・ナットの緩みがないこと。
	電気配線	電気配線の損傷	電気配線に損傷がないこと。
		カブラの緩み	カブラの緩みがないこと。
駆動装置	モーター	回転及び異音	電動走行中、モーターの回転がスムーズで異音がないこと。
		電磁ブレーキの効き具合	クラッチを電動走行の位置にしたとき、手押しで電動車いすが動かないこと。 最高速度で前進し、走行レバーを放したとき、基準の範囲内で電動車いすが停止すること。（基準値：平たん路 1.5m）
	クラッチ	クラッチの作動	クラッチを操作し「手押し」と「電動走行」の切替えができること。
		クラッチの緩み及び作動	クラッチ取付部に緩みがないこと。 クラッチが手押しの位置にあるとき、電源スイッチを「入」にしたとき、電源ランプが 5 回点滅すること。
	ギヤケースユニット	回転及び異音	電動走行中、ギヤの回転がスムーズで異音がないこと。
		ギヤオイルの漏れ	ギヤケースからオイル漏れがないこと。

点検箇所		点検項目	点検方法
充電器	電源ケーブル	電源ケーブルの損傷	電源ケーブルに損傷がないこと。
	充電プラグ	充電プラグの損傷	充電プラグに損傷がないこと。
バッテリーユニット	電源ソケット	電源ソケットの損傷	電源ソケットに損傷がないこと。
	外観	外観の変形、損傷	外観に変形、損傷がないこと。

10. 困ったときは

10-1. 電源ランプの連続点滅について

「電源ランプ」の連続点滅は以下の内容を表示します。

「電源ランプ」は、連続点滅した後に約 2 秒間消灯し、再び点滅を繰り返します。

電源ランプ
電動車いすの
状態を示します。
(P13 参照)



点灯：正 常
点滅：要点検

回数	意味	状態	対応方法
1	バッテリー電圧が低下しています	走行可	バッテリーの残量が残りがわずかです ➤バッテリーを充電してください
2	バッテリー電圧が極端に低下しています	走行不可	バッテリーの残量が極端に低下しています ➤バッテリーを至急充電してください。 ➤充電後に電源を入れなおしてください ➤電源を入れなおしても改善しない場合は販売店にご連絡ください
3	バッテリー電圧が高すぎる状態です	走行不可	充電中の場合は充電器を取り外してください ➤確認後に電源を入れなおしてください ➤電源を入れなおしても改善しない場合は販売店にご連絡ください
4	モーターに問題を検知しました	走行不可	前輪・後輪の車輪に干渉する障害物や、タイヤ車軸に何かが絡みつくななどしている場合、取り除いてください ➤確認後に電源を入れなおしてください ➤電源を入れなおしても改善しない場合は販売店にご連絡ください
5	電磁ブレーキ回路に問題を検知しました	走行不可	クラッチが手押しの位置にある状態で電源を入れると発生します。クラッチを電動走行の位置にしてください ➤確認後に電源を入れなおしてください ➤電源を入れなおしても改善しない場合は販売店にご連絡ください
6	走行レバーに問題を検知しました	走行不可	走行レバーが押された状態で電源を入れると発生します。走行レバーがなにかで押されている場合は取り除いてください ➤確認後に電源を入れなおしてください ➤電源を入れなおしても改善しない場合は販売店にご連絡ください
7	速度調整器に問題を検知しました	走行不可	次の手順に従い、電源を入れなおしてください
8	モーターに問題を検知しました	走行不可	① 一旦電源を切ります ② バッテリーを取り外し、もう一度バッテリーを取り付けます。 ➤確認後に電源を入れなおしてください ➤電源を入れなおしても改善しない場合は販売店にご連絡ください
9	その他の問題を検知しました	走行不可	

10-2. こんなときには

電動車いすをご使用されていて、『故障かな?』と思ったら、販売店に連絡する前に、下記項目をご確認ください。

症状	チェック項目	対処方法
電源スイッチを「入」にすると「電源ランプ」が点滅する。	連続点滅による警告表示です。「電源ランプ」の点滅回数を確認してください。	27ページの表を参考にして、「電源ランプ」の点滅回数に応じて対応してください。
「傾斜警告ランプ」が点滅する。	急な坂を走行していませんか?	安全傾斜角度を超えると、光と音でお知らせします。(前後約10°以上、左右約4°以上)傾斜地での走行を中止して、ゆっくりと平地まで戻ってください。
走行できない。	電源スイッチが「切」になっていませんか?	電源スイッチを「入」にしてください。
	バッテリーの残量はありますか?	バッテリーの残量が低下して「バッテリーメーター」の針が赤色の位置にあると走行できない場合があります。直ちにバッテリーを充電してください。
	「クラッチ切替レバー」を確認してください。	クラッチが手押しの位置にある場合は、走行できません。クラッチを「電動走行」の位置に戻してください。
	パーキングブレーキが掛かっていませんか?	パーキングブレーキを解除してください。
	電動車いすに負担が掛かっていませんか?	急な坂道、高い段差や大きな溝の乗越えなど、電動車いすに負担が掛かると走行できません。負担の掛からない場所で走行してください。
	体重100kg以上の方が使用していませんか?	使用者最大体重は積載物を含め 100kg です。100 kg を越えるとモーターに負担が掛かり走行できない場合があります。
異音がする。	モーターから異音(ガラガラ、キーンキーン)が出ていませんか?	販売店に修理を依頼してください。
	ボルトやナットが緩んでいませんか?	販売店に修理を依頼してください。
走行距離が短くなった。	外気温度が低くありませんか?	外気温が20度以下になると、バッテリーの性能が低下し走行距離が短くなります。
	バッテリーユニットを充電してください。	バッテリーは経年劣化により性能が低下することがあります。走行距離が極端に低下した場合は、販売店にご相談ください。
充電できない	充電器のLEDランプが赤色点滅していませんか?	充電器の故障です。販売店に修理を依頼してください。

11. 製品の仕様

製品の寸法には多少の誤差があります。

製品仕様は品質改善、製品追加のため予告なしに変更することがあります。

全長	1190mm
全幅	665mm（アームレスト最大幅時）
全高	1050mm（バックミラー含む）
前輪／後輪	16 インチ ノーパンクタイヤ／12 インチ ノーパンクタイヤ
シート幅	400mm
シート奥行き	380mm
シート高さ	580mm
使用者最大体重	100kg
本体重量（バッテリーユニット含む）	64kg
モーター	DC24V 110W×1 個
駆動方式	後 2 輪直接駆動方式（デフレンシャル付き）
制動方式	後輪：モーター発電制動&電磁ブレーキ・手動ブレーキ
速度	前進：6km/h 後退：2km/h
実用登坂角度	10°
段差乗越え高さ	※1 50mm
溝乗越え幅	※1 100mm
最小回転半径	※1 1072mm
連続走行距離	※2 約 24km（走行条件、環境などにより変動します）

バ ッ テ リ ー	種類	鉛蓄電池
	5 時間容量	12V・18.7Ah × 2 個
	期待寿命	※3 約 600 回
	重量	15kg（2 個）
	使用環境温度	0℃ ～ 40℃
充 電 器	充電器	DC24V 5A マイコン制御自動充電器
	充電時間	7 時間
	環境条件	0℃ ～ 40℃

※1 試験方法は、JIS T 9208：2016 で定められています。

※2 連続走行距離は、常温（20℃）、使用者最大体重、満充電の新品バッテリーで平たん路を前進の最大速度で連続走行し、バッテリー100%放電までの距離を示します。

※3 バッテリーの期待寿命は、使用環境や充電環境の影響を受けることがありますので、600 回の充電回数を保証するものではありません。

12. 保証書

保証書

この製品は、厳重なる品質管理及び検査を経てお届けしたものです。
お客様の正常なご使用状態で万一故障した場合には、本保証書記載内容によりお買い上げの販売店が受け付け致します。

※ 修理は、お買い上げの販売店に必ず本保証書を提示の上、ご依頼下さい。

※ 本保証書は再発行致しませんので、大切に保管して下さい。

フランスベッド株式会社

〒196-0022 東京都昭島市中神町1148番地5
TEL 042(543)3111(代表)

型 式	S637 スマートパルN		
保証期間	お買い上げ日	年 月 日	から1年間
お 客 様	ご住所 〒		
	ご氏名 様		
	電話番号		

販 売 店	
-------------	--

◇◇◇ 保証規定 ◇◇◇

1. 保証期間内に正常な使用状態において万一故障した場合には、無償修理致します。
お買い上げ日及び販売店名は、納品書又は領収書等で確認させて頂きましますので、保証書とともに紛失しないよう保管願います。
2. 次のような場合には、保証期間内でも有償修理になります。
(イ) 使用上の誤り、不当な修理や改造による故障及び損傷。
(ロ) お買い上げ後の転倒、落下等による故障及び損傷。
(ハ) 火災、地震、風水害、落雷やその他の天災地変、公害、ガス害、塩害等による故障及び損傷。
(ニ) 電源を使用する製品においては、指定電源(日本国内仕様)AC100V 50/60Hz以外での使用や異常電圧による故障及び損傷。
(ホ) 本保証書のご提示がない場合。
(ヘ) 本保証書にお買い上げ日、お客様名、販売店名の記入がなく、納品書又は領収書等に必要事項の確認ができなかった場合。
(ト) 保証書の記載事項の字句を書き替えられた場合。
(チ) 消耗部品の取替え及び点検等の費用。
(リ) 離島や離島に準ずる遠隔地については、弊社規定に沿った訪問に要する実費を申し受けることがあります。
3. 本保証書は、日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only in Japan.
4. 法的責任
この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無償修理をお約束するものです。従ってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理についてご不明の場合は、お買い上げの販売店にお問合わせ下さい。
5. 保証の対象
本体及び付属品。但し、消耗部品、縫製部品、別売部品は除く。
6. 免責
本製品の故障の放置又はその使用によって生じた、直接、間接の損害についての保証は、一切その責を負いませんので、予めご了承下さい。

修理の記録

保証書および保証期間について

保証書：所定事項の記入および記載内容をご確認の上、大切に保管してください。

保証期間中に修理を依頼される場合：保証書の記載内容に従って修理いたします。

保証期間を過ぎて修理を依頼する場合：修理すれば使用できる場合は、希望により有料で修理いたします。

修理・お取扱い・お手入れなどのご相談は、
まず、お買い上げの販売店へお申し付けください。

修理を依頼されるときは

修理を依頼される前に取扱説明書をよく読み、再度点検の上、お問い合わせください。

ご連絡いただきたい内容・・・ご住所、ご施設名、ご氏名、電話番号、型式名、販売店、
お買い上げ日、故障または異常の内容（できるだけ詳しく）

弊社の商品は厳格な検査を経て納入致しておりますが、万一不具合な点がございましたら、
販売店または弊社お客様相談室までお問い合わせください。

お客様相談室



フリーダイヤル：0120-39-2824

受付時間：月～金曜日 9時～12時 13時～17時

（土、日、祝祭日、年末年始、弊社指定の休日などは除く）

フランスベッド

※ 電動車いすの廃棄については、最寄りの行政担当窓口におたずねください。